

はあと

メディカルインフォメーション

第127号

2026年 1月 9日

発行：東京臨海病院
東京都江戸川区臨海町 1-4-2
電話 03-5605-8811 (代表)
FAX 03-5605-8113
発行責任者：臼杵 二郎
編集：広報委員会／総務課

新年のご挨拶 ～千年を迎えて～

新年あけましておめでとうございます。

日頃より当院の診療にご理解と温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。
特に地域の皆様、そして連携いただく医療機関をはじめとする関係各位の変わらぬご協力に、深く感謝申し上げます。

昨年は皆様のお力添えにより、3月末に東京都より地域医療支援病院の承認を得ることができました。
今後も地域の医療機関をはじめ関係の皆様と連携し、地域における急性期医療の担い手としての役割を果たしてまいります。

そして 2026 年も救急医療とがん診療を柱とし、多職種によるチーム医療を基盤とした3つのセンターの更なる発展に努め、地域の医療ニーズにしっかりと応えてまいります。

ご承知のとおり、医療を取り巻く環境は一層厳しさを増しております。しかしながら当院は、「患者中心の病院とし、病院と患者の相互信頼に基づく医療を展開する」という基本理念を一貫して大切にしています。そして今年の重点目標として「連携の深化」と「医療の質の更なる向上」を掲げます。各部門による地域の皆様との重層的な連携関係の構築を目指し、また職員一同、日々研鑽を重ね、安全で安心できる医療の提供に努めてまいります。

地域の健康を力強く支える“最後の砦”として、今年も決意を新たに邁進する所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2026年 元旦 病院長 臼杵二郎

■ 令和8年1月より、土曜診療を充実させます

当院では、現在も第2・第4土曜日に診療を行っておりますが、令和8年1月より、より多くの患者さんにご利用いただけるよう土曜診療の体制を充実させます。平日の受診が難しい方にも安心してご来院いただけるよう、利便性の向上と検査体制の強化に取り組んでまいります。

【変更点（令和8年1月～）】

- 平日と同様に**予約制を導入**します
- 検査体制を拡充します
- 受診できる診療科が増えます

※受診される際には、かかりつけ医や他医療機関などからの紹介状をお持ちください。なお、紹介状がなくてもご受診いただけますが、診療費のほかに初診時選定療養費 7,700 円（税込）をご負担いただきます。

※土曜日の診療体制は、外来診療スケジュール表をご確認ください。

■ 第 27 回区民公開講演会を開催しました（11/1）

令和 7 年 11 月 1 日（土）に地域の皆さまを対象とした第 27 回区民公開講演会を開催いたしました。今回のテーマである「高齢者のがん～自分らしい治療をうけるために～」について、山口医師（当院副院長・がん相談支援センター長・呼吸器内科部長）、北澤看護師（認知症看護認定看護師）、高畑医師（泌尿器科医長）が講演を行いました。



山口 朋禎
(副院長・
がん相談支援センター長・
呼吸器内科部長)



北澤 菜々子
(認知症看護
認定看護師)



高畑 創平
(泌尿器科医長)

■ 新型インフルエンザ等対策訓練（11/8）

江戸川区では毎年 11 月、当院を含む 3 つの医療機関を中心に、新型インフルエンザ等対策訓練を実施しています。本年は、区内の 110 を超える医療機関が参集し、区役所・保健所・医師会・薬剤師会・消防署と共同で、新たなパンデミックを想定した訓練を行いました。

訓練では、海外で発生した新たな感染症「X」が国内に持ち込まれたという想定のもと、ディスカッション形式で進めました。患者が外来を受診した際、どの時点で感染症 X を疑い対応するのか、また他の医療機関や保健所・消防との連携をどのように図るのか等について議論しました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックで浮き彫りとなった課題を改めて共有する場となりました。ディスカッション終了後には、参加者全員で個人防護具の着脱訓練を行い、訓練を締めくくりました。

パンデミックは地震・津波・台風・豪雨などと同様に「災害」の一つに数えられます。自然災害は局地的な事象が多い一方、パンデミックは世界規模の災害です。官民が一体となって連携しなければ乗り越えられないことは、先のパンデミックから得た大きな教訓です。江戸川区では、パンデミック以前からこのような訓練を継続して実施してきました。その成果として、先のパンデミックでは多くの区民が地元で医療を受けることにつながりました。今後も次なるパンデミックに備え、この取り組みを維持・発展させてまいります。



■ 世界糖尿病デーイベントを開催しました（11/11）

11 月 11 日、通院中の患者さんならびに地域住民を対象に「世界糖尿病デーイベント」を開催しました。本イベントは、糖尿病に関する知識の普及と早期発見・予防を目的とし、血糖測定・血圧測定・身体計測、食品組み合わせ体験、神経障害体験、ポスター掲示、防災グッズ展示など、多彩なプログラムを実施いたしました。

血糖・血圧測定では、ご自身の数値を知ることによって「生活習慣を見直すきっかけになった」との声が寄せられました。特に、普段健診以外で数値を確認する機会が少ない方にとって、現状を知ることができる貴重な機会となりました。神経障害体験では、末梢神経障害の症状を擬似的に体験していただき、「思っていたより痛みがあった。」などの感想もあり、合併症予防の重要性を改めて認識していただけたようでした。また、糖尿病患者向け防災グッズ展示では、災害時に必要な物品を実際にご覧いただき、非常時への備えを再確認する場となりました。

食品組み合わせ体験では、管理栄養士と共に食事の組み合わせを考えることで、「食事はバランスよくとりたい」などの意見が寄せられ、日頃の食事を見直す機会となりました。

参加された方からは、「知らないことを色々知れて良かった」「健康意識が高まった」とご好評をいただきました。今後も地域の皆さまの健康づくりを支援するため、継続的に啓発活動を行ってまいります。



■ 地域医療連携情報交換会（11/14）

令和 7 年 11 月 14 日（金）地域の医療従事者のみなさまをお招きし、当院主催の「地域医療連携情報交換会」を開催しました。今年度は「当院の呼吸器疾患への取り組み」をテーマに、呼吸器内科および呼吸器外科の医師が講演を行いました。

江戸川区を中心に、江東区、墨田区、浦安市などから多くの先生や医療従事者にご参加いただき、過去最多となる、44 施設 78 名の方々にご来場いただきました。また講演後、同日開催された当院看護部主催の「病院・地域ケアチーム連携会議」と合同での懇親会では、近隣医療機関・施設・事業所のみなさまとの交流も大変活発に行われました。

当院では、「顔の見える連携」を大切にしており、本会がその一助となったことをうれしく思います。ご参加・ご協力をいただいたみなさまに、心より感謝申し上げます。



■ クリスマスコンサート（12/19）

12月19日（金）、クリスマスコンサートを開催しました。今年は、世界的なアーティストとの共演や、数々のコンサートやイベントで活躍する、山浦文友香さん（ハープ）・枝並清香さん（ヴァイオリン）をお迎えし、「アメイジング・グレイス」や「クリスマス・メドレー」などを演奏していただきました。



ICT times Vol.65

もう一度、感染対策を！

風邪や季節性インフルエンザの感染対策は日常でのせきエチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。できるかぎり家庭に感染症を持ち込まないようにしましょう！

対策1 手洗い

手にはウイルスや細菌がつきやすい部位です。汚れた手で顔を触ると、病原菌が、目や鼻、口から入って感染します。

人は、“無意識に”顔を触っています！

目に見える汚れが付いたときは、流水と石けんで手を洗いましょう。

『手洗いが必要なタイミング』

- 外から帰ったとき ●料理を作る前 ●食事の前後
- トイレの後 ●せき、くしゃみ、鼻をかんだ後
- 外にある物を触った後

対策2 せきエチケット

多くの感染症が、せきやくしゃみの飛沫に含まれる病原菌から感染します。

人が集まる場所でせきやくしゃみが出るときは、

せきエチケットを心掛けましょう！



出典：首相官邸 HP より



■ 休診のお知らせについて

当院ホームページにて、お知らせを掲載しております。ご来院の際ご確認をお願いいたします。また、医師の急な都合により、休診情報を掲載できない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

★詳しくは病院ホームページをご覧ください <http://www.tokyorinkai.jp/>



病院ホームページ

■ 「東京臨海病院公式 Facebook」

東京臨海病院では Facebook ページで、病院の院内・院外活動について情報発信を行っています。

■ 看護部Instagramのフォローをお願いします！



看護部 →



産婦人科病棟 →



Facebook

【1・2・3月の土曜診療日】 1月10・24日、2月14・28日、3月14・28日

■受付時間■午前8時～午前10時30分

つまり “施設” ってなんなんだ？

医療福祉相談室には、時たま「もう在宅介護は限界なので施設を探したい」と相談にいらっしゃる方がいます。その時にぶつかる壁で多いのが、施設の種類の多さ。今回は“施設”について簡単にご案内いたします。



①有料老人ホーム

『住宅型』や『介護付き』など枕詞が付くこともあります。介護士がいて、皆で食事して、レクリエーションして、と一般的に“施設”と言われるのがここです。介護の必要度は人それぞれ。寝たきりの人からお元気な人まで、基本的には誰でも入居相談が可能です。皆でリハビリに取り組んだり、逆に個人の時間を大切したり、医療に特化したりと特色は様々です。

②グループホーム

認知症と診断された方が共同生活を行う施設。認知症の悪化で自宅での生活が難しくなった方が生活します。身体介護を必要としない方が対象となるため、寝たきりの方は入居を断られる場合があります。

③介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

通称・特養。要介護3以上の介護認定をお持ちの方が入居できる施設。基本的に住民票所在地にある施設に入居申し込みをしますが、他の施設に比べて費用が安く応募殺到で入居できるまで数年待つことも多いです。近隣ではみどりの郷福楽園やなぎさ和楽苑がここに当てはまります。

④介護老人保健施設

通称・老健。病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設。要介護認定が必須で、尚且つ法律上病院への定期通院は原則不可。在宅復帰を目標とするため、早いと3ヶ月から半年ほどで退所となります。

今回は様々な“施設”についてご紹介しました。また、今回挙げた以外にも『サ高住（こうじゅう）』や『軽費老人ホーム』『小多機（しょうたき）・看多機（かんだき）』など介護保険上では色々な“施設”があります。少しでも気になったら、担当ケアマネージャーさんや最寄りの熟年相談室に相談してみたいかがでしょうか？



■ 編集後記

本格的な冬の寒さとなり、お鍋がおいしい季節ですね。私の地元、青森県八戸市のあったかグルメといえば、「せんべい汁」が有名です。鶏肉と野菜のうまみがきいた醤油ベースのつゆに、南部せんべいを入れた郷土料理です。最近では、南部せんべいとチョコレートの組み合わせが人気の「チョコQ助」というお菓子もあります。

12月8日に大きな地震がありましたので、応援の気持ちを込めて、地元の産品をたくさん食べていこうと思います。一日でも早く被災地が復興できることを願っております。



診療実績

2025年11月の当院の実績は以下のとおりです。

病床数：400床

医師数（2025年11月1日現在）：78名

外来延患者数：11,880名

入院延患者数：8,012名

手術件数：246件